由比宿　広重のように東海道を歩く● 約3.5km

蒲原駅から本陣公園、そして由比駅までのコースです。
東海道の雰囲気が残る町並みを天才浮世絵師の広重の目でみてみると全てが絵の題材となる風景です

- 旧東海道
- お勧め探訪コース
- 情報拠点
- 見どころ
- 案内板・説明板・マップ
- 写真撮影ポイント
- 食べ処(桜えび)
- バス停　駐車場
- トイレ　コンビニ
- レンタサイクル

日本のアニメ文化の原点ここにありぃ！？

日本をイメージする文化の一つであるアニメーションは、外国の人が日本を知るきっかけとなっています。同じように歌川広重の絵はゴッホをはじめ19世紀の芸術家たちに多大な影響を与えたといわれています。

浮世絵は、どのような絵を描くかを決める「版元」、構図や絵を描く「絵師」、版を彫る「彫師」、色を付ける「摺師」の共同作業で作り上げています。これは現在のアニメ制作と似ていると思いませんか?日本にはそれぞれの分野のスペシャリストが協調しあって、より素晴らしいものを作り上げる文化があるのでしょう。東海道広重美術館にいくとその醍醐味を体験できます。

■静岡市東海道広重美術館／開館時間:9:00～17:00　休館日:月曜日　料金:一般500円、大学高校生300円　中学生以下無料

静岡市東海道広重美術館

本陣

正雪紺屋

下り懸魚

⑪御殿跡「北田の舟ケ島」

家康公は、駿府に隠居してから、東は三島から西は浜松までの各宿場に自分用の休泊御殿をつくりました。全ての御殿からは富士山が見える場所に作られたそうです。

⑫豊積神社

「延喜式」に記載されている神社。坂上田村麻呂に由来するお太鼓祭りは、正月元日より三日間、青年らにより太鼓が担ぎ出され、その歌に合わせてねり歩く祭典で県無形民俗文化財となっています。

①桝形跡(東)

宿場の入口には、街道をカギの手に曲げて桝型にして万一の攻撃に備え、さらに木戸や土塁をつくり宿場入口のサインにもなっていました。

由比宿も東西の出入り口は桝型に折れており、現在もその面影が残されています。

②お七里飛脚の役所跡

西国の大名の中には、江戸の屋敷と領国の居城との連絡に直属の通信機関(七里飛脚)を持っていました。この役所跡は、紀州徳川家のもので、当時、江戸～和歌山間(584km)に約七里(28km)毎の宿場に中継ぎ役所を置き、主役(お七里役)と五人一組の飛脚(お七里衆)を配置していました。飛脚には剣道、弁舌にすぐれた者が選ばれ、昇り竜、下り竜の模様の伊達半天を着て「七里飛脚」の看板を持ち、腰に刀と十手を差し、御三家の威光を示しながら往来したようです。

普通便は毎月3回、江戸は五の日、和歌山は十の日に出発し、8日間、特急便は4日間で到着したそうです。

③問屋場跡

問屋場とは、幕府の書状や荷物を次の宿場まで届ける飛脚業務、幕府の公用旅行者や参勤交代の大名の馬や人足の世話、旅人の宿泊、荷物の運搬手配など宿場の中枢でした。

④正雪紺屋

由比正雪の生家と伝えられ、四百年続いている紺屋(染物屋)として昔ながらの技法による染物を今も続けています。蔀戸がある建物の屋内の土間には、藍瓶等の染物用具が埋められ、火事の時に貴重品を運び出す用心籠が天井に吊されているなど昔の紺屋の様子を偲べます。

⑤脇本陣

由比宿には脇本陣を交代でつとめた家が三軒ありました。そのうち江戸時代後期から幕末にいたるまでつとめたのが、この饂飩屋です。

⑥明治の郵便局

江戸時代の通信機関であった飛脚屋は明治4年、郵便制度の創設により由比郵便取扱所、さらに明治8年に由比郵便局となりました。

明治39年、当時の局長が自宅を洋風の局舎を新築し、明治41年より郵便局を移転しました。この局舎は昭和2年まで使用され、現在は私宅となっています。

⑦本陣

通常の本陣とは異なり、街道に家屋を直面させず、石垣と木塀が作られています。間口33間(60m)、奥行き四十間(73m)、面積は1300坪(4300㎡)で敷地内には、物見塔、本陣井戸が残り、現在、静岡市東海道広重美術館、御幸亭、東海道由比宿交流館などが併設される東海道由比本陣公園となっています。門、右手の石垣に沿った水路は大切な移動のパートナーであった馬のための「馬の水のみ場」です。

この本陣の当主は、1560年に今川義元とともに「桶狭間の戦い」で討死にした由比助四郎光教の子権蔵光広が帰農してからといわれています。以来、代々継承されてきていました。

⑧桝形跡(西)

宿場の西の入口です。1841年の資料では、由比宿の町並みは東西五町半(約600m)となっています。

⑨由比川と入上地蔵

由比川は当時、仮の板橋が架けられ旅人はそれを渡っていたそうですが、雨が降って水量が増すと、この橋は取り外されたようです。このように徒歩でわたれる川を徒歩渡りといっています。入上地蔵は由比川で溺れた水難者を祀っています。川尻の淵には河童がいるといわれ、地蔵の頭を持っていると河童にさらわれないという言い伝えがあります。

⑩せがい造り 出桁・船木造

家の軒先を長くすると強い風雨や陽射しを遮る効果と格式のある美しい景観を生み出します。せがい造りとは軒先を長くだすために、平軒桁へ腕木を付け足して出桁とし榧を置いたもの。由比町の町並みに多く見られます。

稲葉家 下り懸魚

懸魚とは水の代わりに魚を懸けることで木造の建物を火災から守るおまじないとして屋根に飾るものです。下り懸魚は、桁に取り付けるもの。桁の両端が風雨による腐食を防ぐ用途もあり、雲版型の板に若葉、花鳥などを彫り込み、建物の装飾も兼ねています。

H28.8月　静岡二峠六宿街道観光協議会